

特集「社会を活性化するコンピュータセキュリティ技術」の編集にあたって

吉 浦 裕^{†1}

ネットワークはすでに水道や電気のような重要インフラであり、ユビキタス環境へとさらに発展を続けている。そして、行政や金融、流通からエンターテインメントに至る多様なネットワークサービスが稼働し、人々の活動を支えている。コンピュータセキュリティは、これらのネットワークやサービスを保護し、利用者に安心をもたらす必要不可欠な技術として、今や充実期を迎えようとしている。暗号やデジタル署名などの基礎領域では、安全性モデルなどの理論整備が進み、その上で様々なスキームが提案されている。また、ネットワークセキュリティは実用評価が進む一方、公的機関やツールベンダー、メーカなどの技術連携が進んでいる。さらに、リスク工学や心理学、法学、経済学との学際研究も進んでいる。このように、ネットワークとコンピュータセキュリティは手を携えて発展を続けてきた。

しかし、この発展を支えてきた IT 産業は厳しい経済状況に直面しており、大学や国公立の研究機関も厳しい状況にある。また、IT の日常化に従って、その魅力が人々に伝わりにくくなっており、若者の情報離れなど、IT の将来に影を差す不安要因が生じている。社会の高齢化、人口減少も長期的には国内市場の縮小につながる不安要因である。

そこで、コンピュータセキュリティ技術の高度化によって、高齢者などのより多くの人々がネットワークを安心して利用できるようにしたい。また、ブレークスルー技術や新応用の発見により、魅力的な新サービスの創出、国際競争力の向上につなげたい。そのような技術開発の一助となることを願って、「社会を活性化するコンピュータセキュリティ技術」特集を企画した。

本特集の投稿数は 79 件であり、一昨年の 63 件、昨年の 61 件と比較すると 30%程度の増加となった。採択数は 28 件、採択率は 35%であり、レベルの高い論文が選ばれたと考え

る。採択論文の内訳は、セキュリティ基盤技術 6 件、ネットワークセキュリティ 8 件、侵入検出・検知 7 件、セキュリティと社会 4 件、危機管理とリスク管理 3 件となっており、コンピュータセキュリティ技術全般にまたがる広い分野で論文が採択されている。特に、危機管理とリスク管理に関する論文の採択数が 3 件であり、一昨年の 0 件、昨年の 2 件から着実に増加している。これは、技術開発だけでなく技術運用の研究が進んでいることを示しており、セキュリティ技術の社会への浸透がうかがえる。今後も、暗号やネットワークセキュリティなどの基幹領域におけるインパクトのある研究、様々な学際協力による新しい技術の萌芽研究が論文となり、社会の活性化と IT の魅力回復につながることを期待したい。

特集号の編集にあたって、このように多数・多様な投稿論文を査読し、出版にこぎつけることができたのは、編集委員、査読者、学会関係者の多大なる御尽力のおかげであり、ここに厚く御礼申し上げる。特に、土井洋編集委員（情報セキュリティ大学院大学）、寺田雅之編集委員（NTT ドコモ）には、取りまとめの中心になって献身的に運営を行っていただいた。心から感謝申し上げたい。

「社会を活性化するコンピュータセキュリティ技術」特集号編集委員会

- 編集長
吉浦 裕（電気通信大学）
- 編集委員（五十音順）
岩村恵市（東京理科大学）、宇田隆哉（東京工科大学）、越前 功（国立情報学研究所）、岡本栄司（筑波大学）、加藤岳久（東芝ソリューション）、菊池浩明（東海大学）、櫻井幸一（九州大学）、佐々木良一（東京電機大学）、下川俊彦（九州産業大学）、高木 剛（はこだて未来大学）、田中 清（信州大学）、田中俊昭（KDDI 研究所）、寺田真敏（日立製作所）、寺田雅之（NTT ドコモ）、土井 洋（情報セキュリティ大学院大学）、鳥居 悟（富士通研究所）、中西 透（岡山大学）、西垣正勝（静岡大学）、朴 美娘（三菱電機）、松浦幹太（東京大学）、満保雅浩（筑波大学）、宮地充子（北陸先端科学技術大学院大学）、村山優子（岩手県立大学）、盛合志帆（ソニー）

^{†1} 電気通信大学
The University of Electro-Communications